環境
****

提案・意見	EV 急速充電器について

EV 急速充電器は 300 円必要なのはよいことですが、税金で設置しているにもかかわらず市民からもお金を徴収するのはどうでしょうか？
他の市は無料でやっている場所もあるし、伊勢市民はカードで対応出来るようにするなど無料で使用できる様にしてほしい。

回答

伊勢市では電気自動車等の普及と促進策等を、行動計画「おかげさまAction!」としてとりまとめ、取り組みを進めています。その一環として、平成 26 年４月より市役所駐車場内に急速充電器を２基設置し、ご利用をいただいています。

ご意見にありました利用料金につきまして、急速充電器は道路や公園などの不特多数の方がご利用できる公共施設とは異なり、電気自動車をお持ちの方のみがご利用できる施設となることから、受益者負担としてご負担いただいているところです。
ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

担当課	管財契約課

道路
****

提案・意見

北新橋の塗装について

河崎の北新橋のパネルがさびたり、はがれている。
ちょうど川の駅からの通り道にあたりますので、確認して色を塗って下さい。

回答

ご意見いただきました北新橋のパネルのはがれでございますが、現地確認させていただきましたところ、橋桁の保護と着色を兼ねた塗装のはがれが確認できました。
幸い桁の腐食には至っておりませんでしたが、補修を行いたいと考えております。

担当課　維持課

まちづくり
****
提案・意見　伊勢神宮周辺の歩行者保護について

1月6日と7日に、伊勢神宮の外宮と内宮を初めて訪れました。
気になったのは、外宮参道とおはらい町を通行する車両の存在です。どちらも歩行者側が車も通る道であるという認識を持ちにくい状態に感じられました。

外宮参道では、1月3日で終了している「自転車及び歩行者専用」交通規制の伊勢警察署長名の大きな立て看板が、終了後3日以上も放置されており、最初見た時はその日も歩行者天国なのかと誤解しました。外国人など規制期間の日本語を理解できない人もいるでしょうから、道の中央を歩いて事故にならないとも言えません。一義的には三重県警の怠慢だとしても、警察ができないのなら道路管理者や観光を担当する市役所、あるいは地元の皆さんが気づいて対応していただきたいものです。

さらに外宮参道は歩道部分に路上駐車しやすい構造であり、それを避けて歩行者が車道へ出なければならないのは不安でしたし、おはらい町には伊勢市長名の注意書きがありましたが、小さすぎて目立ちません。外宮参道、おはらい町とも、日本語以外の言語も併記した、もっと目立つ注意書きを設置するべきではないでしょうか。

また、沿道店舗の納品や宅配業者など恒常的に通行する車両に対しては、存在を周知する告知音（メロディのようなもの）を流しながら走行するようにしてもらうといった対応もできるのではないでしょうか。
すべての参拝客が楽しく安全に歩けるような、いっそうの配慮を期待します。

回答

貴重なご意見ありがとうございます。
　まず、外宮参道の「自転車及び歩行者専用」の規制看板の件ですが、撤去については、警察当局との協議で伊勢市役所が撤去することになっておりましたが、規制終了直後に撤去をせず、ご迷惑をお掛けしました。お詫び申し上げます。

　次に交通規制ですが、伊勢にお見えになった１月６、７日は、おはらい町通りでは、午前６時から午後６時まで車両通行禁止でしたが、軽車両と許可車両は通行可能でした。外宮参道は、車両通行禁止の規制はされておらず、車両は通行可能の状態でした。

歩行者の安全確保の観点からみますと全面的な車両進入規制が望ましいところですが、一方で地域にお住まいの方々にとりましては、生活道路としてなくてはならないものでもあります。

しかしながら、歩行者と車両が混在する道路状況は、決して望ましいものではありません。今後は、看板設置方法も含めた歩行者に対する周知及び駐車問題等を道路管理者、交通規制を所管する公安委員会、地域と協議を行ってまいります。

また、外宮参道の交通安全対策については、道路管理者である三重県伊勢建設事務所に確認したところ、地元住民と協議しながら、必要と考えられる対策については警察とともに検討してまいりたいとのことでした。市としても今後の施策にも役立てていきたいと考えておりますのでご理解賜りますようお願いいたします。

担当課	交通政策課、監理課、維持課

まちづくり
****

提案・意見

宮川堤さくらについて

宮川は昔から、宮川桜千本と言われましたが、少ない様に思います。
どうして小俣方面や川端方面に植樹しないのか。
毎年あるいは、２，３年毎に少しづつ植えていかないのでしょうか。

回答

宮川右岸について、宮川堤の桜は「一目千本桜」といわれ、「さくら名所 100 選の地」に選ばれています。
昨年から始まりました国土交通省の堤防改修工事に伴い、支障となる桜の木がやむを得ず伐採され、本数は減少しましたが、今後新たに補植が行われます。
次回の式年遷宮を迎える頃には、見ごたえのある平成の桜堤となることを目指しています。

なお、宮川左岸について、川端町地内の高水敷は、今後公園としての利用計画はありますが具体的なことは決まっておりません。今回のご提案については公園利用計画の参考にさせていただきたいと存じます。

担当課　監理課

まちづくり
****
提案・意見 伊勢市駅前の活性化外

本日の朝刊に、市役所の改修記事が掲載されていましたが、ひとつの提案をさせていただきます。

現在の狭隘の駐車場の回避と伊勢市駅前の開発を兼ねて、国が進める「コンパクト・シティ」を目指してエキビルを建て、公共機関を集中させる。
　キーワードとして、次の項目を目指す。
　　・コンパクト・シティの採用
　　・参宮線の伊勢鳥羽間の廃止
　　・エキビルの建設
　　・ロータリー交差点の採用
公共施設を集めるとともにと商業施設と融合するひとつの町をつくる、階層は景観を守るために２階とし、屋上駐車場を作り利便性を図る。広大なＪＲの土地の地上権を使えば充分な広さは確保されると思う。
エキビルの中に、公共施設・商業施設・土産品店、飲食ブース・駅の改札を設ける。

駅周辺の開発として
①本町の JR 踏切の廃止
ＪＲの伊勢市鳥羽間を廃止し、その線路を近鉄に無償譲渡し電車に代替えして運行（宇治山田駅手前の高架からなだらかに傾斜をつけてＪＲ線路と結合）することにより廃止に伴う不便性を解消する、JR の岩渕の踏切が閉鎖されることから、そこへロータリー交差点を採用し、八間道路からの宇治山田駅・伊勢市駅への相互の行き来を促せば、少しでもスムーズになり部分的な一方通行も解消できるし、渋滞も緩和できるのではないか。

②駅前の開発
伊勢市駅前の公園と道路（旅館の前）を廃止し、駅の前に二車線の直線道路を新設し外宮からの道路と突き当たる、三差路の交差点をつくる。鉄道利用者は駅舎の２Ｆからスロープか階段を設けて外宮参道へ、またホテル・商店街へは陸橋を設けて人の導線を設け、今の交差点の信号なくしスムーズにする。
愛知万博の長久手会場みたいな回廊式にすれば景観も守られるのではないか。

宮後の踏切を歩行者専用とするか廃止する。廃止する場合は駅へ直結できるものと新道商店街へも直結できるものする。と同時に利用者が少ない現在ある陸橋を撤去する。（市内にある陸橋って耐震は大丈夫なのか。建てられて数十年経過するけど。）
旧三交百貨店跡地の利用も決まったことから、ホテルの開業と併せて２年先の伊勢市駅前の開発を進めてみてはどうですか。

③公共施設の跡地の活用
観光バスが国道から外宮に直接入る道がないことから、神田久志本交差点を経由して外宮へ向かうバスのターミナルとして整備する。
遷宮館の前は、一般車の駐車場として、駐車場所が広がる。

（財源）
自主財源と国の交付金及び市債を発行し財源とし、民間施設のテナント料をＪＲへの地上権利と市債の財源へ充てる。
バスターミナル地で、観光バスから使用料を徴収する。

伊勢は、２０年ごとの遷宮を機に、道路等が整備され変わってきた、今回「海上交通」が断念されたことから、何も変わらぬ伊勢市駅前の開発を進めてはどうか、小手先の市役所・駅前整備でなく、公共が主になって５年先。１０年先を見据えたプランを立て思い切った開発をしてはどうですか。

白石持行事（遷宮）に係る寄付について
「遷宮」「おかげ参り」が終了し、伊勢神宮周辺は大変賑わいました。
市は今年度予算で、遷宮効果で税収がどれぐらい伸びたのか公表しているのかわかりませんが、税収が伸びたとして市民に目に見えて反映されているのか良くわからない。
そこで、お白石持行事に参加した各町民は、行事が無事終えるために資金面で負担しております、江戸時代には神宮に奉仕することで税が免除されていたと聞きます、前述のとおり行事にかかる資金の内個人会費は自分の意志で行事に参加するので別として、
それ以外に「寄付」しています。寄付については善意で無事終了することを願い協力しているわけで各町たくさんいます、
この寄付について、目に見える形で市民に還元する意味で、市民税の「寄付金控除」の対象としていただけませんか。
観光に携わる人たちは潤っていますが、その他多数の人は出費と労力を提供して行事を成功させました、多分市収入は伸びていると想像できる

ので、職員が自ら身をきって歳費の縮減に取り組むことがないので、市民にも是非還元してください

回答

伊勢市の都市づくりの基本的な考え方としましては、平成 21 年に策定しました「伊勢市都市マスタープラン全体構想」の中で、基幹的な公共交通沿線で都市機能が集積している箇所を集約拠点とし、商業・業務・行政・生活サービスといった多様な都市機能を集約させる集約型都市構造の実現を目指しています。

その中でも、伊勢市の玄関口であり公共交通の拠点である伊勢市駅周辺については、高密度な商業・業務、文化、観光サービスなどの都市活動の核として位置付けており、平成 25 年度には市で駅前広場のリニューアルを実施し、また、民間再開発事業が行われるなど、遷宮効果も相まって周辺地区にかつてのにぎわいが戻りつつあります。

現在、中心市街地活性化のため伊勢市駅前地区に民間再開発事業の誘導を推進するため計画を策定しているところです。
駅を中心としたまちづくりは、市の活性化を図る上で大きな課題でありますことから、今後も財政状況等を踏まえながら十分検討していきたいと考えています。
今後とも都市計画行政にご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。（都市計画課）

また、市税に関する貴重なご意見、ご提案ありがとうございます。
遷宮効果による税収への影響でございますが、申告内容等により課税されるものでもありますことから、課税をした結果からは詳細に把握はできないところでございます。
ただし、平成２６年度の法人市民税につきましては、前年度より伸びており、増額となっているところでありますため、こうした点から遷宮による効果が現れているものと思われます。
ご提案いただきました「寄附金控除」につきましては、税法上対象にすることはできないところでございますが、前述しました法人市民税の税収は、市内の公益的事業に使用されておりますため、市民の皆様にも遷宮効果による税収の影響が還元されているものと考えられますので、ご理解いただきますようお願いいたします。（課税課）

福祉
****

提案・意見	意見公募に対する市の対応について

高齢者福祉、介護保険事業計画案の意見公募に応募した。
伊勢市の配食サービスの対象が「買い物と調理が困難な方」となっているのに対して、他市長では「調理が困難な人・世帯」となっていることを示して、対象を拡大するように求めた。

この意見に対する市の見解は「対象者につきましては……調理が困難な方」とあったので、担当者に他市町のように「調理困難な方」が対象かと聞いたところが、「買い物と調理困難な方」が対象という。
他市町より遅れているので、意見公募の回答だけを繕っておりおかしい。市民に対するペテンと言わねばならない。
苦情を言ったら、「これから他市町のケースを調べて整理する」との回答であったが、これもおかしい。

意見公募に対する市のペテン的な回答をそのままにするつもりか。許しがたい態度だ。市民をなめているのか。
配食サービスの対象者の実態と意見公募への市の回答が違うのだから、市民に謝罪して回答の文書を取り消すべきではないか。
それとも他市町なみの対象に改善するのか。ハッキリしてもらいたい。

回答

伊勢市の配食サービス事業の目的は、要援護高齢者及びひとり暮らし高齢者等の方々に、定期的に居宅に訪問して栄養の調和がとれた食事を提供するとともに、高齢者の安否を確認することを目的としています。

事業の対象者につきましては、買い物に行ける方を一律に対象外としているわけではなく、個々にその方の状況を聞き取りしながら、判断をさせていただいており、その旨を回答させていただいたところです。
また、他市の状況の聞き取りをしたところ、伊勢市と同様の運用方法で実施しているところや、伊勢市と対象者の運用方法が違い、見守りが必要であることが前提になっているところなどがありました。
伊勢市としましては、配食サービス事業は、高齢者への栄養のバランスがとれた食事の提供や安否確認につながるものと考えており、今後とも他市の状況等を参考に、対象者につきましても検討していきたいと考えておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

担当課	高齢・障がい福祉課

福祉
****

提案・意見

意見公募のあり方について

私は、老人福祉・介護保険事業計画の意見公募に応じて意見を提出した。その内容は市内の定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、事業所が存在するサービス付き高齢者住宅内の居住者への訪問に限られ地域型になっていない現状を指摘し、改善を求めた。

その際、平成２６年度実績１１人／月に対して、２７年度、２８年度、２９年度の各年度の利用見込量も１１人／月になっていることに関して、抜本的に修正し、見なおすことも提案した。

この意見に対して、意見公募後に市から提出された計画案をみると、当初の計画案の数字がアッサリ修正されていた。そして、「市の考え」欄では「サービス見込量については、本計画（案）作成時の中間時点のものです。」と書かれていた。

この「市の考え」に疑問が出てくる。市民に意見を公募した計画案の数字がそんなにいいかげんな数字であったのかという疑問だ。そんな数字で、市民から意見を募集するとは失礼極まるではないか。当初の数字を見て、まじめに考え意見を出した市民を何と考えているのか。
意見公募前の計画案の文書には、そんなに変動する数字であるとの断り書きも無かった。

また、意見公募の前と後では、２～３ヶ月間の期間だ。こんな短い期間に、利用見込量が少なからず変動している（私が意見を出したサービスに限らず、多くのサービスの実績と見込量が変動している）。こんな短期間に見込量の数字が変動すること自体がおかしいではないか。
納得できる説明をしてもらいたい。

回答

平素は、伊勢市の介護保険事業にご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
この度ご意見をいただきました「意見公募へのあり方について」でございますが、パブリックコメント実施時の伊勢市第７次老人福祉計画・第６期介護保険事業計画（案）のサービス見込み量の数値につきましては、中間時点のものではありますが、今期計画における各サービス利用の伸び率を基に、平成 26 年度の利用実績等を考慮して算出をしたものでございます。

また、本来はパブリックコメント実施時に、介護（予防）サービス給付費等の費用見込み及び介護保険料基準額見込みをお示しするものでございますが、今回はパブリックコメント実施時に介護報酬単価等が示されておらず、費用等の見込みにつきましては、改めて算出をさせていただくこととしたものです。

今回、サービス見込み量の数値が変動したことにつきましては、費用等の見込みを算出するに当たり、すべてのサービスにおいて直近の利用実績を踏まえ再度見込み量を算出したもので、より適正にサービス費用を見込むためのものでございます。
ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

担当課	介護保険課

福祉
****

提案・意見	ヘルプマーク導入の要望

今、東京都ではヘルプマークを作成し、普及に努めています。
これは、目に見えない障害を持つ事を示すマークで、内部疾患（心臓・腎臓など）、精神的疾患（うつ・てんかん・統合失調症・不眠症など）、病気や事故で義足使用の方、知的障害者の方、自閉症の方、パニック障害の方、頸椎や脊椎・股関節などに損傷を持っている方・・・見た目では元気であっても、立位維持が苦しい方が沢山おります。

そういう方達が困っている時に助けていただくという事において、とても重要な役割を果たすはずです。
どうか、取り扱い及び普及をお願いします。

回答

ヘルプマーク（カード）は、引用している東京都福祉保健局のホームページにもありますが、常時携帯し、何かあったときに周囲に必要な支援や配慮を求めるための手段として、東京都が定めた指針に沿って、都内の市区町村が独自に内容を定めて作成しているものと認識しています。

伊勢市におきましては、民間企業から手帳を寄付いただき、聴覚や言語障がいのある方に電話お願い手帳などの配付をさせていただいているところですが、それ以外の内部障がい者、知的障がい者などの見た目ではわかりにくい方のカードは現在ございません。

ヘルプマーク（カード）は、課題として、単に一市町村のみでなく、広域的に運用され、どこにいてもそのカードを提示することにより、カードを所持している方への支援や配慮の内容が周囲の方々に即座に通じる仕組みづくりが必要になってくること、また、導入にあたっては、広範囲で統一した取り組みがなされることが重要になってまいります。
名称や様式、内容など、それぞれ地域で独自の取り組みがなされておりますが、いずれもその地域内のみで対応されており、現在のところ、全国的に一般化されたものとはなっていないものと捉えています。
今後、他市の状況も参考にしつつ、啓発活動の取組において研究してまいりますので、ご理解くださいますようお願いします。

担当課	高齢・障がい福祉課

福祉
****

提案・意見

子育て中の支援について

出産したため、2ヶ月間産休中で収入がないのに、国保も年金も市民税も容赦なく引き落とされていく。
もう出産貧乏です。もうこんな思いしたくないから2度と出産なんてしない。
正社員だったところは妊娠報告したらクビ。パートで扶養に入らずに稼いでいるけど貯金までには至らず、住宅ローンも組めないし、本当に心から貧しくなってしまう。産休中のパートにもっと優しくしてほしい。
このままでは、これ以上子どもを安心して持てない。

中学卒業まで医療費無料がおかしい。それより掛金を減らしてほしい。
児童手当より、市民税や所得税を減らしてほしい。
児童手当で遊ぶ親もいるので、働いてがんばっている親にもっと優しくしてほしい。

回答

ご出産おめでとうございます。
ご出産されてからまだ日も浅く、また、この寒い時期での夜間の授乳など、子育てで大変な時かと思います。

ご意見の中にありました職場での労働条件・環境や、各種の税金については、それぞれの目的や仕組みがあります。
こども医療費助成制度、児童手当については、安心して子育てをしていただくための、経済的支援の取り組みのひとつであります。伊勢市では平成２６年９月１日から、通院医療費の助成対象を「小学校卒業まで」から「中学校卒業まで」に拡大いたしました。次代の社会を担っていくお子さまが健康に成長していただくための施策として趣旨をご理解いただけると幸いです。

伊勢市では安心して子どもを産み、子育てしやすいまちづくりを目指しています。いただいたご意見も参考にさせていただきながら、今後も継続した取り組みをすすめていきます。
また、子育てについて、ご心配なことがあれば、ぜひ、こども家庭相談センター（市役所東庁舎２階　電話２１－５７０９）にお声かけください。保護者の方が安心して子育てができ、お子さんが健やかに成長するためのお手伝いをさせていただきたいと思います。

担当課

こども課

教育
****

提案・意見

給食週間について

中学生の子供がいます。小学校から毎年１月は給食が始まったということで、記念として伊勢の料理が給食で出されます。今年もひなたやけ、あいまぜなど、果物も地元産など、毎年献立表を見て子供は楽しみにしています。しかし、この１月下旬は風邪やインフルエンザが流行し休んだり、本人がインフルエンザにかからないように気をつけていても学級閉鎖のため、食べれない日がありました。

広報いせにも、食育の記事もあります。伊勢の食材を知ってもらうためにこのようなメニューがあるのに、毎年毎年とてもがっかりです。市から給食費の補助もありますが、毎月給食費も払っているのに、、。

１月のこのような学級閉鎖もよく出るような月はやめて、もっと他の月に企画をしてほしいです。他の月も風邪や病気で欠席もありますが、この１月のように大人数は休まないと思います。毎年毎年この時期になると、いつも同じ思いです。

回答

平素は、学校給食運営にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。
お子様が学校給食を楽しみにしていただいているとのこと、関係職員一同、大変嬉しく思っております。
さて、今年もインフルエンザ等が流行し、このところ市内の各学校で学級閉鎖が発生しております。児童・生徒の安全を第一と考えるためとはいえ、せっかく楽しみにしていた献立の給食を食べることができなかったこと、大変残念で申し訳なく思います。
戦後の食糧不足の中、アメリカから脱脂粉乳や小麦粉、缶詰などの援助物資が送られ、昭和２１年１２月２４日、東京都の永田町小学校で給食物資の贈呈式が行われました。今の文部科学省である当時の文部省は、この贈呈式の日から１ヶ月遅らせた１月２４日を学校給食記念日とし、２４日から３０日までの１週間を全国学校給食週間と決めました。これを受けて、伊勢市でも毎年１月に全国学校給食週間中の取り組みを実施し、三重県教育委員会事務局を通じて、文部科学省へ報告しています。
これ以外にも、毎月「みえ地物一番給食の日」、「食育の日」を設定し、地場産物を使用した献立を実施しています。

学校給食の献立作成においては、季節の食材を使用した献立や、行事食を取り入れた献立など、栄養教諭等が毎月の献立会議でさまざまな工夫を凝らし、児童・生徒のみなさんにとって学校給食が生きた教材となるよう、努力をいたしておりますので、どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。
このたびは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

担当課	学校教育課